

3. 第2次計画の評価と課題

①前期計画の評価

前期計画である「健康ななよう21計画(第2次)」の評価、総括を行うため、令和6年6月～7月に実施した市民アンケート調査の結果を含め、施策毎に設定した目標値を評価区分に応じ、5段階で評価しました。

評価区分	評価内容	評価基準
A	達成	目標に達した
B	改善	策定時の値より改善している(+10%以上)
C	変わらない	策定時の値と変化なし(±10%未満)
D	悪化	策定時の値より悪化している(-10%以上)
E	評価困難	

②最終評価の概要

全7分野、53項目について最終結果は以下のとおりです。11項目(全体の20%)で達成となり、9項目で改善となり、生活習慣改善のための取り組みの成果がうかがえます。また、悪化しているものが18項目あり、次期計画の課題と言えます。

分野	評価ごとの項目数					計
	A (達成)	B (改善)	C (変わらない)	D (悪化)	E (評価困難)	
1. 栄養・食生活	1	0	6	8	0	15
2. 身体活動・運動	1	1	0	0	0	2
3. 休養・心の健康	0	0	1	1	0	2
4. たばこ	1	2	2	4	1	10
5. アルコール	2	0	1	2	0	5
6. 歯と口の健康	5	1	1	0	0	7
7. 生活習慣病	1	5	3	3	0	12
計	11	9	14	18	1	53

③各分野の評価と課題

栄養・食生活

項目		策定時	中間値	最終評価	評価	目標値
成人の肥満者 (BMI25 以上)の割合	男性	29.8%	35.8%	31.5%	C	28%
	女性	19.9%	17.7%	19.8%	C	減少
20歳代女性のやせ(BMI18.5未満)の割合		13.8%	9.1%	28.9%	D	減少
小学生の肥満者※1 (肥満度20%以上)の割合	男子	10.5%	12.3%	14.4%	D	減少
	女子	10.1%	8.5%	10.0%	C	減少
中学生の肥満者※1 (肥満度20%以上)の割合	男子	10.8%	13.0%	14.2%	D	減少
	女子	8.4%	12.0%	9.4%	D	減少
高齢期(65歳以上)の低栄養 傾向(BMI20以下)の割合	男性	-	13.0%	14.0%	C	減少
	女性	-	19.9%	27.8%	D	減少
朝食欠食率 (週2回以上欠食する者)	20歳代男性	45.0%	35.3%	48.0%	C	32%以下
	20歳代女性	32.3%	54.5%	44.7%	D	23%以下
減塩に心がけている者の割合		45.5%	40.9%	39.7%	D	60%以上
野菜を多くとるようにしている者の割合		57.2%	54.4%	46.2%	D	75%以上
食事で気をつけていることがある者の割合		88.8%	88.8%	87.5%	C	98%以上
地区健康教室・料理教室等の実施回数と参加者数 ※2		90回 2,026名	92回 2,730名	197回 3,468名	A	100回 2,800名
評価計 A:1 B:0 C:6 D:8 E:0						

※1 令和5年度学校健診結果

※2 令和5年度保健事業実績

評価と課題

小中学生の肥満者の割合が男子で増加しており、県や国の調査(小学5年生対象)でも男女ともに肥満傾向が見受けられます。20歳代の女性のやせの割合は増加しましたが、それ以外の年代では肥満の割合が高い傾向にあります。

健康教室・料理教室等の実施回数は、令和2年度より「すこやか健康出前講座」を開始したことにより開催数・参加人数ともに増加しました。特に高齢者向けの内容が多く高齢者サロンの利用が目立っています。

バランスのよい食生活の改善と適正体重維持のため、定期的な体重測定や塩分・野菜の摂取量を可視化し、食事への関心を高めていく取り組みが必要です。

身体活動・運動

項目	策定時	中間値	最終評価	評価	目標値
運動習慣者(週2日、1日30分以上の運動を1年以上継続している者)の増加	16.3%	15.2%	27.1%	A	21.2%
ロコモティブシンドロームを知っている人の割合	4.2%	47.6%	35.1%	B	80%
評価計 A:1 B:1 C:0 D:0 E:0					

評価と課題

運動習慣者の割合は、中間値で変化がなかったものの、最終評価で目標値に達しました。また、歩数計を活用している人の割合は30%弱でした。

運動していない理由としては、「仕事や家事で十分体を動かしている」との回答が30%強でしたが、「仕事や勉強などで時間の余裕がない」との回答も30%弱ありました。仕事や家事で十分に運動量を確保できているか体重変動で確認することや、時間に余裕がない方でも体を動かすことにつながる取り組みが必要です。

「ロコモティブシンドローム※1」の認知度は、策定時より改善していますが、中間値より低下しました。類似の用語(フレイル※2やサルコペニア※3)が増え、ロコモティブシンドロームよりフレイル予防の取り組みが多くなっています。

※1 ロコモティブシンドローム:運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態

※2 フレイル:身体的・精神的・社会的機能の低下

※3 サルコペニア:筋肉量が減少して筋力が低下し、身体機能が低下する状態

休養・心の健康

項目	策定時	中間値	最終評価	評価	目標値
睡眠を十分にとれている人の割合	43.2%	38.3%	18.9%	D	85%
睡眠を十分にとれていない人の割合 【参考】	—	10.2%	26.7%	—	15%
悩みを相談できる人・場所を持つ人の割合	93.2%	90.4%	88.9%	C	98%
評価計 A:0 B:0 C:1 D:1 E:0					

評価と課題

市民アンケートによると、睡眠を「十分にとれている」人の割合は非常に低く、中間値より悪化しています。睡眠を「まあまあとれている」人の割合を加えても73.2%で目標値に達しませんでした。また、成人の推奨睡眠時間6時間以上を確保できている人の割合は70.2%でしたが、「あまりとれていない」「ほとんどとれていない」人の割合は26.7%と中間値の倍以上でした。

現代社会では、様々なストレスを感じながら生活している人も少なくありません。ストレスがあると答えた人は、82.2%います。睡眠はストレスとの関係が深いと言われており、そのことが睡眠の満足度に影響を及ぼしていると考えられます。

さらに、悩みを相談できる人を持つ割合は、ほぼ横ばいでした。相談相手は主に家族や友人、職場の人となっています。一方で相談相手がいない人は11.1%と変わらず、多くの方が心理的サポートを必要としています。これらの結果は、社会情勢の影響を反映しており、ストレス管理と睡眠の重要性が求められています。

たばこ

項目		策定時	中間値	最終評価	評価	目標値
喫煙している人の割合	男性	22.7%	23.7%	26.7%	D	19%
	女性	5.1%	6.8%	6.0%	D	策定時以下
副流煙の害について知っている人の割合		87.5%	91.6%	87.1%	C	100%
学校・公共施設での敷地内又は建物内禁煙の割合		98.5%	100%	— ※1	E	100%
妊婦の喫煙率※2		4.3%	3.4%	0.6%	B	0%
妊婦の受動喫煙率※2		10.7%	—	42.4%	D	0%
児童の受動喫煙率※3	同室または車	33.1%	19.8%	23.6%	C	0%
	換気扇の下	14.3%	29.6%	20.9%	D	0%
未成年者(高3男子)の喫煙率※4		2.1%	4.8%	0.0%	A	0%
COPD※5について知っている人の割合		9.4%	16.9%	48.5%	B	80%
評価計 A:1 B:2 C:2 D:4 E:1						

※1 市町村公共施設受動喫煙防止対策実施状況調査が平成30年度で終了しているため調査結果なし

※2 令和5年度妊娠届出書アンケート

※3 令和5年度防煙教室アンケート

※4 令和4年度県健康・栄養調査

※5 COPD(慢性閉塞性肺疾患):慢性気管支炎と肺気腫の総称

評価と課題

COPDについて知っている人の割合が増加している一方で、副流煙の害について知っている人の割合は横ばいでした。妊婦の喫煙率や未成年者の喫煙率については、目標を達成しましたが、妊婦の受動喫煙率については上昇しました。児童の受動喫煙率については横ばいであり、高い現状にあります。換気扇の下で喫煙している人が増加しています。

受動喫煙が身体に与える影響について、妊娠期から子育て世代に対し普及啓発を図るとともに、今後もCOPDについて普及啓発を図る必要があります。また、換気扇の下での喫煙でも受動喫煙となり、リスクが高まることを周知していく必要があります。

アルコール

項目		策定時	中間値	最終評価	評価	目標値
未成年者の飲酒割合 ※1	高校3年男子	4.3%	5.0%	0%	A	0%
	高校3年女子	2.0%	0%	0%	A	0%
生活習慣病のリスク を高める量を飲酒し ている者の割合※2	男性	13.3%	—	16.8%	D	13%
	女性	4.1%	—	11.4%	D	策定時以下
適正飲酒量を知っている者の割合		37.6%	36.0%	34.0%	C	50%
評価計 A:2 B:0 C:1 D:2 E:0						

※1 令和4年度県健康・栄養調査

※2 1日あたりの平均純アルコール摂取量を女性では20g以上、男性では40g以上

評価と課題

未成年者の飲酒率は男女ともに目標を達成していますが、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒する者の割合は増加傾向にあり、適正飲酒量を理解している者の割合も減少しています。

未成年者の飲酒割合0%を維持していくために、今後も未成年者を取り巻く家庭、学校、地域が連携して飲酒させない環境づくりに努めていく必要があります。

適正飲酒量を知っている者の割合が増加することで、多量飲酒をする者の割合が減少すると考えられます。適正飲酒量の普及啓発を図るとともに、多量飲酒が身体に与える影響についても、周知していく必要があります。

歯と口の健康

項目	策定時	中間値	最終評価	評価	目標値
1歳6か月児でむし歯のない児の割合※1	98.8%	99.2%	100%	A	99%
3歳児でむし歯のない児の割合※2	69.9%	86.9%	92.0%	A	90%以上
12歳児の1人平均むし歯本数の減少※3	0.63本	0.62本	0.36本	A	0.5本
フッ素洗口を実施する幼児施設、小中学校の増加※4	全幼児施設	全幼児施設	幼児施設 8/9	C	全幼児施設 小中学校
定期的に歯科健診に行く者の割合	23.7%	23.1%	52.7%	A	50%
歯間清掃具を使用している者の割合 (18才以上)	31.9%	31.2%	65.7%	A	50%
歯周疾患検診を受診する者の割合※5	0.4%	1.1%	3.5%	B	5%
評価計 A:5 B:1 C:1 D:0 E:0					

※1 令和5年度1歳6か月児健康診査結果

※2 令和5年度3歳児健康診査結果

※3 令和5年度定期健康診断実施報告

※4 令和6年度健康づくり事業実績

※5 令和5年度歯周病検診結果

評価と課題

1歳6か月児でむし歯のない児の割合は 100%に達しました。また、3歳児でむし歯のない児の割合は中間値から増加し、目標を達成しました。乳幼児歯科保健事業により乳幼児の口腔環境が改善してきており、12歳児の1人平均むし歯本数の減少の目標達成の要因となったと考えられます。今後も乳幼児期だけでなく小中学校においても、継続して予防活動を推進していくことが重要です。

一方市民全体で見ると、定期的に歯科健診に行く者の割合は、目標を達成しましたが、性・年齢別に差があり、全年代において男性よりも女性の歯科健診受診率が高い傾向にありました。このため、あらゆる世代の歯科定期健診を促進する体制づくりに取り組む必要があります。

また、歯間清掃具を使用している者の割合は目標を達成し、歯科に関する意識が向上していることが伺えます。生涯にわたり口腔環境を良好に保つために、日常的な口腔ケアや歯間清掃具使用の重要性を普及していく必要があります。

生活習慣病(がん・循環器疾患・糖尿病)

項目		策定時	中間値	最終評価	評価	目標値
健(検)診受診率の向上	特定健診※1	34.9%	39.3%	44.7%	B	60%
	胃がん検診※2	25.1%	24.2%	21.3%	D	60%
	大腸がん検診※2	30.7%	35.2%	35.9%	C	60%
	乳がん検診※2	27.4%	28.4%	48.3%	B	60%
	子宮頸がん検診※2	20.9%	18.9%	43.1%	B	50%
	呼吸器(肺がん)検診※2	32.2%	36.1%	35.9%	B	50%
	がん検診精検受診率※2	93.6%	88.1%	88.9%	C	100%
特定保健指導実施率の向上	特定保健指導実施率※1	27.4%	25.7%	70.9%	A	60%
特定健診受診勧奨者の割合	高血圧※3	28.7%	28.3%	39.4%	D	18.7%
	脂質異常(LDL)※4	25.7%	21.7%	22.7%	B	15.7%
	糖尿病※5	7.1%	8.6%	10.7%	D	6.6%
メタボ該当者および予備軍の割合※1		25.1%	27.6%	27.1%	C	18.8%
評価計 A:1 B:5 C:3 D:3 E:0						

※1 令和5年度特定健康診査法定報告

※2 令和5年度健康増進報告

※3 令和5年度特定健診・ドック結果(収縮期血圧 140mmHg 以上または拡張期血圧 90mmHg 以上)

※4 令和5年度特定健診・ドック結果(LDL コレステロール 140mg/dl 以上)

※5 令和5年度特定健診・ドック結果(HbA1c6.5%以上)

評価と課題

特定健診受診率は、計画策定時よりも改善しましたが、目標値達成にはまだまだ遠く、県内ワーストとなっております。健診を受診しない理由に、「治療中の病気があるから」「健康だと思っているから」との回答が多く、健診受診の重要性を周知するとともに勧奨の方法を検討していく必要があります。特定健診結果では高血圧や糖尿病の受診勧奨者の割合が増加しています。特定保健指導実施率は向上しており、その要因として、令和3年度から外部委託を行い、初回面接を健診当日に実施したことが考えられます。

がん検診では、乳・子宮がんの受診率が改善していますが、他の健診は目標に届いていない状況です。未受診者への勧奨方法について検討の必要があります。